

豆州志稿、當社を以て式内社石徳高神社なりとして云く、

「往昔向江間村雄徳山に鎮座せりと云、雄徳は石徳の轉訛ならむ、山頭に御寶殿と稱ふる巖石あり、神の鎮座の域と傳ふ、山麓に神戸、神田、神傳田、忌馬場、鳥居前、鳥居内等の稱呼存す」

初めは雄徳山に鎮座あらせられ、江間の郷の總鎮守たりしが、後ち分配して二社とす、一は當社、他は寺家村八幡神社となりしと、蓋二社に分祀せるは、江間、北條の地、往古は一郷にして、共に和名抄所載の依馬郷内たりしが、狩野川其の間を流るゝに及びて、自ら分れたるなり、依りて總鎮守たりし雄徳山鎮座の石徳高神社を、江間にてはナム郷に奉遷し、北條にては寺家村に奉遷せるなりと、近世二三の異説なきにしもあらずといへども、斯説最も有力なるが如し、國中有數の大祠にして、大明神と記せし古額を有し、文明四年の銘ある金鼓を藏せり、明治六年九月郷社に列せらる。

社殿は本殿、拜殿、其他廳屋等を具備し、境内三百坪(官有地第一種)あり、因みに云ふ、社名豆塚は地名に依りしものなり。

例 祭 日 四月三日

會計法適用 明治四十一年九月二十五日  
告示第四百三十四號

神饌幣帛料供進  
指定年月日 氏子戸數 百十戸  
崇敬者員數 未詳

○静岡縣伊豆國田方郡戸田村大字戸田字宮脇

郷社 部田神社

祭神 大國主命

式には部田を部多に作り、維新以前は三島神社とも稱せり、創立年代詳ならずといへど、式内社にして、延喜の制小社に列せられ、神位は神階帳に、從四位上へだの明神と見えたり、明治六年八月郷社に列せらる。

社殿は本殿、幣殿、拜殿、其他廳屋を具ふ、天正二十年九月の再建なりと、境内は四百二十四坪(官有地第一種)あり、村の中央にありて、社頭整然、一見式社たるを知らしむといふ。

境内神社 日枝神社 大神宮 厩戸神社

例 祭 日 陰曆九月九日

會計法適用 明治四十一年九月二十五日  
告示第四百三十四號

神饌幣帛料供進  
指定年月日 氏子戸數 六百戸  
崇敬者員數 未詳

○静岡縣伊豆國田方郡修禪寺村大字修禪寺字神戸

郷社 日枝神社

祭神 不詳 或云 大山咋命